



令和二年 9 月 9 日
一般社団法人日本地質学会

コロナ禍での地質学教育に関するサイバーシンポジウム

発表形態：資料送付

発表先：文部科学省記者会、科学新聞社

概要

化石、鉱物、火山、地震などを扱う「地学」にとって野外や実験室での観察はきわめて重要です。しかし新型コロナウイルスの感染拡大に伴って従来の教育方法は極めて困難な状況にあります。全国の学校（大学、高等学校等）や博物館・科学館、ジオパークなどでは、教員や学芸員らがそれぞれのできる範囲で苦心して教育・普及活動を進めています。それぞれの実施事例やアイデアを共有できれば、今後しばらく続くと予想される困難な状況でも教育・普及活動の質の向上あるいは低下抑制が期待できます。大学や高校での授業（実験や野外実習を含む）、卒業研究や修士研究、博物館やジオパークでの教育普及活動などをどのように工夫して進めているかについて情報共有し、コロナ禍におけるフィールド教育のあり方について議論されますので、記者の皆様にお知らせいたします。

日本地質学会行事委員長 星 博幸

主催と日時とアクセス方法

主催：一般社団法人日本地質学会

開催日時：2020年9月27日（日）9:30-12:15

開催方法：YouTube ライブ配信（URL：<https://youtu.be/YNjhqzVP0jk>）

どなたでも視聴可能。事前申込不要。参加費無料。

プログラム

9:30 開会

9:35～10:35 <大学の取り組み>

1. 地球惑星環境学科（東京大学）の取り組み（後藤和久・東京大学理学部地圏環境科学科）
2. 地球科学系講義科目のオンライン化実践：オンデマンド配信用動画作成における気づきを中心として（乾 睦子・国土館大学理工学部）
3. コロナ渦における地学系実験・実習の実施：茨城大学理学部における事例紹介（岡田 誠・茨城大学理学部）
4. 前期をほぼ無傷で終了した山口大学の例（坂口有人・山口大学理学部）

10:45～11:15 <中高の取り組み>

5. オンライン学習の軌跡：試行錯誤の現状と今後の課題（渡来めぐみ・茗溪学園中学校高等学校）
6. 高校における地学教員としての課題と地質学教育の実践例（松永 豪・大阪府立泉北高等学校）

11:20～11:50 <博物館・ジオパークの取り組み>

7. 学校休校と臨時休館をきっかけに生まれた「おうちミュージアム」とは（渋谷美月・北海道博物館・北海道大学大学院環境科学院環境起学専攻）
8. オンラインでの野外地質見学ツアーの試みについて（白井孝明・萩ジオパーク）

11:50～12:15 <ライブ総合討論>

12:15 閉会

- ・各プレゼンテーションは15分です（発表12分＋ライブ質疑応答3分）。
- ・途中5～10分程度の休憩をはさみます。
- ・視聴者の皆様はYouTube上で質問・コメントを書き込み、ライブ総合討論ではそれらを活かしたディスカッションを行います。

連絡先と関連情報

ウェブサイト：

<http://www.geosociety.jp/science/content0123.html>

問い合わせ先：

日本地質学会行事委員長 星 博幸

メール hoshi@aeucc.aichi-edu.ac.jp 携帯電話 090-1095-0064

一般社団法人日本地質学会事務局

メール main@geosociety.jp

住所 〒101-0032 東京都千代田区岩本町 2-8-15 井桁ビル 6F

電話 03-5823-1150

備考：11月下旬または12月上旬に第2回シンポジウムを開催予定です。詳細は日本地質学会ホームページに掲載します。